

## ジベレリンの冬季散布によるかんきつ「不知火」の着果抑制法

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部  
担当者：北園邦弥

### 研究のねらい

現在栽培されているかんきつ「不知火」は、樹勢が低下しはじめると結果母枝に弱小枝が発生しやすく、同時に過剰着花に陥りやすい。この花の多くは落花(果)して樹体の貯蔵養分を浪費し、樹勢低下を助長することが懸念される。

このため、ジベレリンの冬期散布により着花を抑制し樹勢低下防止を図る。

### 研究の成果

- 1 散布時期は12月下旬、1月下旬ともに同様の着花抑制効果が得られる。
- 2 直花や総状花の減少程度が大きい。
- 3 散布により発生する新梢数は増加し、新梢長、節間長は長くなる傾向にある。
- 4 散布濃度は、25ppm以上で安定した効果がみられるが、経済性を考えると25～50ppmが適当と思われる。

### 普及上の留意点

- 1 「不知火」に対して翌年の着花が多く、新梢発生不足が懸念されるような場合に使用する。
- 2 散布は果実の収穫後に行う

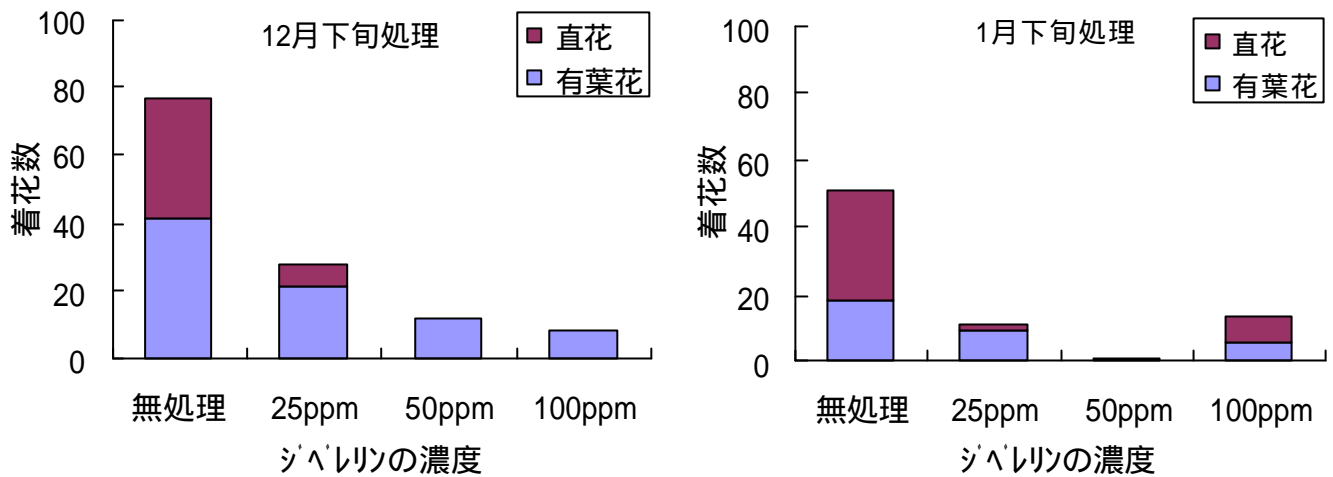
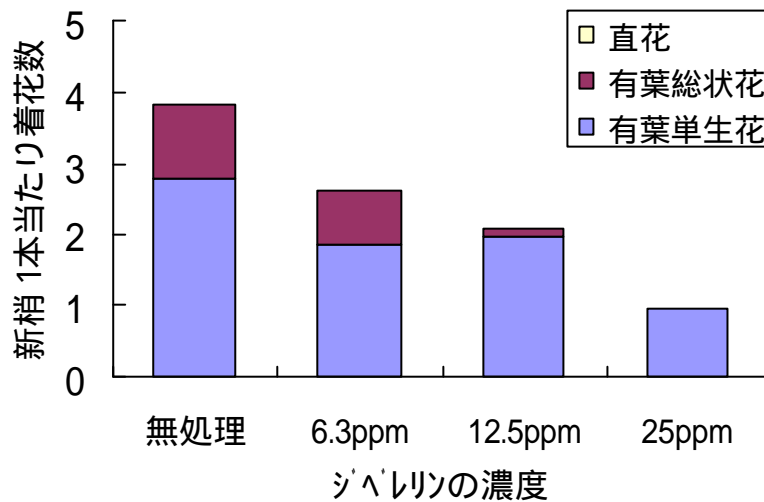


図1 ジベレリンの散布時期と濃度が「不知火」の着花に及ぼす影響  
注) 処理日; 平成9年12月26日、平成10年1月30日



第2図 ジベレリンの散布濃度が「不知火」の着花に及ぼす影響  
注) 処理日; 平成11年1月29日

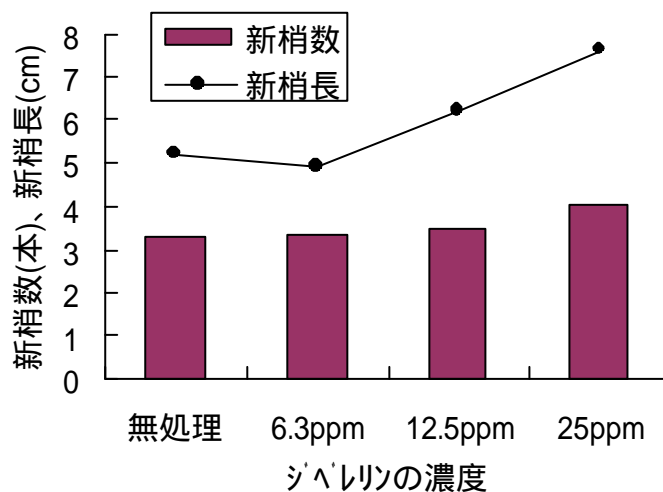


図3 ジベレリンの散布濃度が「不知火」の新梢に及ぼす影響 注) 処理日; 平成11年1月29日